

骨盤骨折患者の造影剤血管外漏出像の検出に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年12月13日 ～ 2026年12月31日

〔研究課題〕 骨盤骨折患者における造影剤血管外漏出像の検出に対する subtraction CT の診断能に関する検討

〔研究目的〕 骨盤骨折は非常に重症な外傷(怪我)であり、大量出血から命にかかわることがあります。治療としてはカテーテルを用いて血管を塞栓する止血術(経カテーテル的動脈塞栓術)が有効であることが知られています。この経カテーテル的動脈塞栓術を行う基準として、造影剤を用いた CT 検査での造影剤の血管外漏出像(血管内に投与した造影剤が破綻した血管から漏出する所見)の存在が挙げられます。しかし、一刻を争う重症骨盤骨折の臨床現場において、この造影剤血管外漏出像を正確かつ迅速に診断することは難しく、重要な課題です。我々は、サブトラクションという2つの画像を引き算して新たな画像を作成する画像再構成技術を利用し、この造影剤血管外漏出像を正確かつ迅速に診断できないかと考えました。本研究の目的は、骨盤骨折患者におけるサブトラクション CT の造影剤血管外漏出像に対する診断性能を明らかにすることです。

〔研究意義〕 正確かつ迅速に造影剤血管外漏出像を検出することが可能になれば、骨盤骨折患者に対する早期の適切な経カテーテル的動脈塞栓術が可能となると考えます。

〔対象・研究方法〕 2015年4月から2023年7月までに当院で造影 CT を撮影した骨盤骨折の患者様につき、診療録に記載されている年齢、性別、病歴や CT 画像における造影剤血管外漏出像の有無・部位などについて電子カルテから情報を取得して解析します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部放射線科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、帝京大学医学部放射線科学講座にある鍵のかかる保管庫で保管します。研究終了後には使用した情報は帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄します。

研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、問い合わせ先までお申し出ください。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 氏名 近藤 浩史 医学部放射線科学講座 職名 教授
研究分担者: 氏名 平野 貴規 医学部放射線科学講座 職名 シニアレジデント
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 7565]